

平成23年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	国立公園利用適正化システム策定費		担当部局庁	自然環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成18年度		担当課室	国立公園課		課長 上杉 哲郎		
会計区分	一般会計		施策名	5-2 自然環境の保全・再生				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	自然公園法第10条第1項		関係する計画、通知等	生物多様性国家戦略2010				
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)	尾瀬国立公園が独立したことによる新たな利用動態を踏まえ、尾瀬国立公園全体の利用者の集中による自然環境への影響や利用者ストレスを把握し、科学的な知見に基づいた適正な利用を実現するための各種取り組みを地域とともに推進し、国立公園の科学的、順応的な管理運営の実現を図る。							
事業概要 (5行程度 以内。別添可)	年間30万人以上の利用者が訪れる尾瀬国立公園において、利用の適正化を図るため、利用による自然環境への影響や利用者ストレスを調査し、そこから得られた「適正収容力」をもとに、利用資源調査等を含めた地区ごとの利用の在り方を検討するとともに、利用の少ない入山口への利用者誘導対策、混雑状況や自然・歩道の状態などの現地情報を発信など、利用分散化のための対策を行った。 また、ツキノワグマによる被害を防止するため、ツキノワグマの行動解析、利用者への周知・注意喚起とともに、関係者・関係機関による被害防止体制を強化した。 さらに、地域と積極的に連携するため、管理運営体制の全体的な枠組み構築を検討した。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	23	23	23	21	16	
		補正予算	—	—	—	—		
		繰越し等	—	—	—	—		
		計	23	23	23	21	16	
		執行額	23	23	23			
	執行率(%)	99	98	96				
成果目標及び 成果実績1 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	本業務は尾瀬国立公園における科学的、順応的な管理運営を目指すべきものであり、その成果について、定量的な指標で示すことはできない。		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	-	-	-	-	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	本業務は尾瀬国立公園における科学的、順応的な管理運営を目指すべきものであり、その活動について、定量的な指標で示すことはできない。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	-
						(-)	(-)	
単位当たり コスト	-		算出根拠	-				
平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	国立公園等調査管理委託費	21	16	人件費や現地調査回数等を見直し、必要最低限の予算となるよう、概算要求額を減額。				
	計	21	16					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>尾瀬国立公園は、利用者が脆弱な湿原に集中する利用上の課題を持つが、区間にあった適正収容力を踏まえた利用の在り方の検討及び利用誘導を行い、かつ、関係者との連携体制の下、ツキノワグマの出没や外来種対策等への即時対応をとることにより、適正な利用を維持することができる。</p> <p>国立公園の管理においては、保護と利用のバランスをとることが重要であるとともに、近年は生物多様性の保全に対する社会的要請を踏まえた柔軟な管理が求められており、日本の国立公園の代表する尾瀬国立公園において当該事業を実施する必要性は高い。</p> <p>なお、本事業の実施に当たっては、引き続き随時進捗状況等を把握し、必要な助言及び指導を行っていく。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>事業内容の精査・見直しを行い、必要最低限の支出となるように検討を進めるべき。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>人件費や現地調査回数等を見直し、必要最低限の予算となるよう、概算要求額を減額。</p>		
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
-			

環境省
23百万円

【企画競争・委託】

A. (財)尾瀬保護財団
23百万円

尾瀬国立公園利用適正化推進事業の実施

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

A.(財)尾瀬保護財団					
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	各業務人件費	14			
業務費	各業務旅費、協議会等諸謝金、消耗品等	5			
その他	一般管理費・消費税	4			
計		23	計		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計			計		

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につい
 て記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)尾瀬保護財団	尾瀬国立公園利用適正化推進事業の実施	23	企画競争	-